

## 目次

編集方針と報告範囲	P.1
2002年度の活動のハイライト	P.2
最高責任者の緒言	P.3
事業の概要とステークホルダー	P.5
経営理念と推進体制	P.7
環境中期計画と進捗状況	P.9
環境先進企業を目指して	P.11
石油と環境に対する当グループの認識	P.11
環境会計の概要	P.11
事業活動の環境負荷低減	P.12
使用時の環境負荷低減	P.13
総合エネルギー事業の展開	P.15
温暖化防止への取り組み	P.16
環境ビジネスの展開	P.17
環境・社会パフォーマンス	P.19
事業活動における環境負荷の認識	P.19
原油生産・輸送・備蓄	P.21
製油所・オフィス	P.23
物流	P.29
サービスステーション	P.30
従業員とのかかわり	P.31
お客様とのかかわり	P.33
環境・社会貢献活動	P.35
海外協力活動	P.37
コミュニケーション	P.38
経済パフォーマンス	P.39
コスモ石油グループ企業行動指針	P.40
環境会計	P.41
サイト別データ	P.45
千葉製油所	P.45
四日市製油所	P.46
堺製油所	P.47
坂出製油所	P.48
コスモ松山石油	P.49
中央研究所 / コスモ石油ルブリカンツ	
コスモ石油本社・支店	P.50
環境保全活動のあゆみ	P.51
用語集	P.52
第三者意見書	P.53
第三者審査報告書	P.54

\* 読者アンケート / 2002年版アンケート結果

## 編集方針

この報告書は、コスモ石油グループの活動を、環境保全を中心とする「社会的責任」の視点で捉え、ステークホルダー(利害関係者)の皆様へ報告することを目的に、継続的に発行しています。ステークホルダーの認識については、P.5を参照ください。

当グループは、社会との調和と共生を図るべく、環境負荷の少ない石油製品の提供、安定供給、事故防止などを総合的に実施しています。そのため事例は「環境」と「社会」を一体化させ、「環境・社会パフォーマンス」の項目でまとめて報告しています。

石油資源の有効利用や新エネルギー技術の開発も、当グループの環境保全活動の特徴です。当報告書では、環境技術開発や新エネルギー事業についても報告しています。

体系的な情報開示を行うために、環境省の「環境報告書ガイドライン」を参考にしています。また、活動を多面的にご判断いただけるよう、「GRIガイドライン\*」を参考に「環境」「社会」「経済」の情報を盛り込んでいます。

\*GRI(Global Reporting Initiative)ガイドラインは、環境報告書を包含した持続可能性報告書のガイドラインであり、環境、社会、経済のトリプルボトムラインを重視しています。

## 報告範囲

この報告書は、コスモ石油グループの2002年度(2002年4月1日～2003年3月31日)の環境保全・社会的責任活動に関する報告書です。ただし、事例などに関しては一部2003年度の内容も含んでいます。なお、報告期間中に事業上の重大な変化はありませんでした。

報告対象範囲は、コスモ石油グループです。グループの範囲については、P.5を参照ください。「事業活動における環境負荷の認識(P.19)」および「環境会計(P.41～44)」のデータは、製油所、中央研究所およびオフィス部門、コスモ松山石油(株)等を対象にしています。